

ACG032-P05

会場:コンベンションホール

時間:5月27日 16:15-18:45

マイクロ波放射計を用いた JAXA の海氷データセット JAXA's sea-ice dataset derived from passive microwave sensors

直木 和弘^{1*}, 堀 雅裕¹, 今岡 啓治¹, 関 三恵子²
Kazuhiro Naoki^{1*}, Masahiro Hori¹, Keiji Imaoka¹, Mieko Seki²

¹ 宇宙航空研究開発機構, ² リモートセンシング技術センター

¹Japan Aerospace Exploration Agency, ²Remote Sensing Technology Center of Japa

宇宙航空研究開発機構(以下、JAXA)では、2011年にGlobal Change Observation Mission ? Water(GCOM-W)の打ち上げを予定している。GCOM-Wは、水循環に関わるパラメータの観測を目的に様々なプロダクトが計画されている。海氷分野では、これまでの標準プロダクトである海氷密接度その他、海氷移動ベクトル、薄氷域検知など計画されている。また、環境変動の把握には、長期にわたる観測が重要である。マイクロ波放射計による観測は、1978年以降30年以上にわたる観測が行われている。その結果、2007年に海氷面積が最少となったことが観測できた。GCOM-Wの観測周波数帯は、2002年から観測が行われているAdvanced Microwave Scanning Radiometer (AMSR)シリーズと同じである。そのため、今後も連続した海氷変動の観測が可能である。しかし、過去にさかのぼるためには、Scanning Multichannel Microwave Radiometer (SMMR)、Special Sensor Microwave/Imager (SSM/I)のデータが必要である。これらのセンサは、観測周波数帯はほぼ同様であるが、分解能や入射角が異なる。そのため、連続した海氷面積の推定には各衛星間での補正が必要である。現在、我々は、補正を加えた長期海氷面積変動のデータセットも作成している。本発表では、これらのマイクロ波放射計から得られる海氷関連のデータセットの紹介を行う。

キーワード: GCOM-W, 海氷プロダクト, マイクロ波放射計, 海氷面積, 長期データセット

Keywords: GCOM-W, sea-ice product, passive microwave sensor, sea-ice area, long-term dataset